

建造禁止に踏み切りました。が、現実には和船に洋式帆船の技術を取り入れた折衷式の合の子船が広く使われ、これが昭和初期の機帆船時代へと移行していきます。

小型船は制約外のため、近年まで沿岸漁船として全国的に使用されてきましたが、現在の主流は合成樹脂使用のFRP船となり、和船の数はわずかとなってきています。

和船の特徴

和船を代表する弁財船や関船の特徴には以下のものがあります。

●洋式船や中国式船などのように船殻（船体の外殻）の構成に肋骨（この骨組みを竜骨という）を用いないで、厚板と横に通した梁で形成する板船構造。

●主要部の甲板は揚げ板方式。水密性は低

いが、荷物の積み降ろしには便利。

●船首の壮大な「みよし」、船尾の大きく反り上がった「外艦」。

●帆は一枚の四角帆で、帆柱はその中央に一本あり、立てたり倒したりすることが可能。

●航海計器としてコンパスは持っていたが天測器は使用が禁止されていたため、航行は陸地や島の姿を確認しながらの地方航法（じかたこうほう）によった。

※地方航法（陸よりの海を航行する方法）

和船の大きさ

江戸時代以降の商船（荷船）は積石数または帆の反数で、軍船と漁船は櫓の挺数または帆の反数でその大きさを表しました。